

今宮の

火祭り

平成十年七月五日号

今宮の「火祭り」は、昭和四十年ごろまで毎年行われていた伝統ある行事です。その後、行われなくなっていました。地元の人々の情熱によって復活され、現在も行われています。

今回は今宮の「火祭り」の由来についてご紹介します。

昔、昔のことです。今宮では毎年のように火事が起きていました。それに加えて相次ぐ干ばつで不作が続く、村人の生活は大変苦しい状態に追い込まれていました。そこで村人

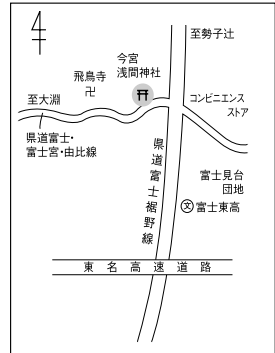
たちは、「この災いを払いのけるように何か祭りをしよう」と相談をしました。

ところがそ

れから三日後、またも火事が発生しました。その日は風が強く火は瞬く間に広がり、大火事となってしまいました。

村人たちは、すぐに祭りを行おうと話し合い、火を清めるための「火祭り」を行うことに決めました。季節は八月の初めを過ぎていたので、お盆に合わせて祭りをすることにしました。そして、名主が三晩連続の「火祭り」をするように、村じゅうにおふれを出しました。

いよいよお盆です。村の中心に火床をつくり、そこから火をもらったいまつにひもをつけてぐるぐる振り回しながら、村の一軒一





◀「火祭り」が行われる
今宮浅間神社

▼ たいまつを回して
歩く様子



軒を回っておはらいをしました。三日目の晩には、村じゅうの人が神社の鳥居の前に集まり、大きなかがり火をたき、名主や組頭が火のついたたいまつを村人の頭の上でぐるぐる回して祭りを終えました。

するとその年から、前年まで続いた干ばつもなく豊作になり、不幸な火事もなくなつて村は平和になつたということですね。その後、この「火祭り」は何百年も続いたそうです。

今宮火祭り保存会実行委員長

高瀬 清さん（今宮）
たかせ きよし

最近では地区の行事でみんなが一つになることが減りましたが、私が子どもころはこのお祭りがとても楽しみで、大人も子どもも盛り上がっていました。そのころの思いを胸に、何とか自分たちの手でお祭りをやろうと、同じ思いを持つ人たちと平成五年に復活させました。それからことしで六年目になり、祭りの日には人もたくさん集まっています。

毎年お祭りが終わると課題が残りますが、それがまた来年へのステップになっていますね。そして将来はもっと張りのあるよりよいお祭りを目指し、この伝統ある「火祭り」を若い世代に伝えていきたいと思っています。